



岐阜大学環境サークル
G-amet
 GIFU UNIVERSITY STUDENTS' ASSOCIATION
 FOR THE ENVIRONMENT



Twitter
 (環境サークルG-amet)



Twitter
 (自然再生プロジェクト)



ホームページ

岐阜大学環境サークル G-ametは2018年9月に創設され、現在は「廃棄物・資源循環」「緑化・景観管理」「生物多様性保全」の3部門において活動を展開しています。活動理念「わたしたちにできることからあたりまえに」のもと、大学職員や教員、地域住民、他大学とも連携して、立場や世代、専門分野などあらゆる枠を超えて環境課題に取り組んでいます。

<p>古本市 学生や研究室から回収した本を無償提供</p>	<p>キャンドルナイト 商店街や大学で集めた廃油・空瓶を利用してキャンドル製作&イベント開催</p>	<p>キャンドルナイト 岐阜大学食堂の廃油を利用してキャンドルを製作&キャンパスで開催</p>	<p>クリーンキャンパス 大学周辺の清掃とポイ捨て対策の検討</p>	<p>丸池清掃 大学シンボルゾーンの景観整備&外来種駆除</p>	<p>環境報告書執筆 名古屋大学との共同編集チームへの参加&他大学との意見交換</p>
<p>ハーバリウムづくり 「楽しみながら環境問題を学ぶ」ワークショップの開催</p>	<p>緑化活動 キャンパス利用者が気持ちよく過ごせる空間づくり</p>	<p>SDGsワークショップ 大学の環境活動やSDGsを周知を目的に学生・教員・職員を対象に開催</p>	<p>環境系サークル交流会 G-ametが企画・運営して5大学2大学院から22名が参加</p>	<p>岐阜大学未来フォーラム 岐阜・愛知県の高校生を対象に5つのワークショップを開催</p>	<p>企業や他大学への訪問 企業や他大学における環境配慮の取り組みを見学</p>



岐阜大学における学生主体の生物多様性保全・自然再生プロジェクト

鶺鴒池自然再生プロジェクト

半世紀近く放置され自然環境の劣化と生物多様性の低下が進んだ池の自然再生

- 周辺の自然環境や土地利用（人獣共通感染症）も考慮して新たな湖沼・湿地生態系を創出する
- あらゆる分野における学内外の専門家との協力のもと科学的知見に基づいた保全方策を実施する
- 生物多様性保全の地域拠点として調査研究や自然観察、人材育成、環境教育の場を目指す

水質調査 動物調査 文献調査 植物標本作製ワークショップ 岐阜祭屋内企画（展示） 特定外来生物駆除活動
 土壌シードバンク調査 かいばり（池干し） 浅場（エコトーン）造成 キャンパス植物マップ作成



岐阜大学自然保存地
鶺鴒池 (Ibis-like Pond)
 キャンパス緑地の自然再生運動が契機となって1975年に「自然保存地」に指定されましたが、半世紀近く放置され、自然環境の劣化と生物多様性の低下が進んでいます。
 しかし、現在でもクイーンズロードをはじめとする貴重な動植物が生息し、冬季には1日300羽の野鳥を観察することができます。



！ キャンパスに生息する貴重な水生生物

自視の調査結果を含めるとキャンパスには8科20種の魚類が生息していることが明らかになりました。「岐阜市版レッドリスト2015」に掲載されているデメモロコ（絶滅危惧Ⅰ類）やトウカイヨシノボリ（絶滅危惧Ⅰ類）、ヌマムツ（準絶滅危惧）、ナマズ（準絶滅危惧）の生息が確認されました。淡水二枚貝のヌマガイ（絶滅危惧Ⅱ類）も確認されましたが、絶滅が懸念される状況にあることが明らかとなりました。水生・水生植物については「岐阜市版レッドリスト2015」に掲載されているミズユキノシタ（絶滅危惧Ⅰ類）やヒメナミキ（絶滅危惧Ⅰ類）、サデクサ（絶滅危惧Ⅱ類）、オグルマ（準絶滅危惧）、ゴキヅル（準絶滅危惧）の生育が確認されました。これら他にもナゴヤダルマガエルやオオカなどの希少種が確認されています。鶺鴒池は岐阜市最大級の渡り鳥の飛来地として市民に知られており、冬季には1日300羽程度のカモ類を見ることが出来ます。



野生生物同好会カテナビタ



Twitter

野生生物同好会カテナビタは、「野生生物との関わりを考える」をテーマに自然観察を行うサークルです。カテナビタは、岐阜大学が野生動物看護を行っていた時代に、その看護を手伝いながら人間と動物の関わり方を考える同好会として発足しました。岐阜大学が野生動物の受け入れを終了した際にカテナビタは分離し、現在は、野外で野生生物を観察し室内で知識を深めるという活動を主としています。団体名称の「カテナビタ (Catena-Vita)」は、ラテン語で「生命(Vita)の鎖(Catena)」を表します。

鳥見の会



週に1回、大学周辺で野鳥観察を行います。大学周辺ではスズメやカラス類などのおなじみの野鳥から、コムドリ、オオルリなどの渡り鳥まで様々な野鳥を観察することができます。今年度は計76種類の野鳥を観察しています。

定例会



週に1回、活動報告や勉強会を通して野生生物についての知識を深めます。テーマはフィールドでの注意点、好きな生物の紹介、部員の遠征報告など様々です。

演習林



岐阜大学位山演習林(下呂市)で自然観察を行います。今年は山班・川班に分かれ、山歩き、植物観察、魚釣りなどを楽しみました。

遠征・合宿



休暇を利用して滋賀、愛知、北海道、小笠原などに行きます。岐阜では見られない生物を観察することができます。

はく製の会



活動中に採集した哺乳類、鳥類の死体などを使って標本・剥製づくりを行います。製作した標本・剥製は、岐阜大祭の展示や定例会で使用します。

学生バードソン



学生バードソンとは、バードウォッチングと募金活動を合わせた自然保護チャリティー運動です。チームを結成し競技日1日で確認できた鳥類の種数を競います。去年は岐阜、愛知、三重の3県をまたぎ野鳥観察を行いました。

屋久島サル調査への参加



毎年夏に屋久島で行われる調査に参加します。屋久島の大自然の中で、定点調査、シカ糞調査、植物調査等を行いサルの行動やシカの個体数などを調べます。

下北サル調査への参加



青森県の下北半島で行われるニホンザルの調査に参加します。北限のサルの生態や個体間関係、群間関係などを調べます。

奄美大島オオトラツグミ一斉調査への参加



3月に奄美大島で行われるオオトラツグミの調査に参加します。早朝にオオトラツグミの鳴き声を聞き、生息個体数を調べます。オオトラツグミ以外にも、様々な生物を観察することができます。

博物館見学



博物館の展示を見学し、野生生物についての知識を深めます。今年度は、大阪自然史博物館の特別展「日本の鳥の巣と卵427」と、岐阜県博物館の企画展「蔵出し！骨のあるやつ」を見学しました。